



みはら 玉手箱



1. 第2回「三原城下町ウォーク」を支援

昨年からはじめた「三原城下町ウォーク」の第2回目が、平成26年10月5日(日)に開催され、約70人の参加者がありました。

午前中はサン・シープラザで講演会、午後城下町の史跡を巡回するスケジュールで、市民学芸員は、体験グループが午後の現地説明で協力しました。



第2回「三原城下町ウォーク」のガイドブック

1.1 講演会

講師 広島大学総合博物館 佐藤大規先生

演題「アウトドアミュージアムとしての古建築—三原城・宗光寺山門」

＜講演要旨＞

三原城

三原城本丸建物図と本丸御殿の写真(明治13年9月撮影)等から判断される、本丸大広間の特色。

- 表、中奥、奥の3列構成
- 矩折れ(かねおれ=L字型)の上段
- 定型化された配置の座敷飾
- 落縁(おちえん)を屋内に取り込む…落縁の柱は聚楽第に例はあるがめずらしい(古式の雨戸があったと思われる)

⇒ 16世紀末の書院造殿舎
 ⇒ 格式の高い小組格天井や、聚楽第に似た様式が採用されていることは、広島城の支城となった福島や浅野時代にはありえないことから、小早川隆景公が本丸大広間を建築したと考えられる。

宗光寺の山門

現存する宗光寺の山門は、以下の理由により、毛利の家臣だった小早川隆景公ではなく49万石大名福島正則公がその養嗣子正之の菩提寺用に建立したと考えられる。

- 形式・格式…四脚門は、親王家や大臣家という身分の高い者や有力な寺社にしか建築が許されていない極めて格式の高い門であり、城の防御には構造的に適さない。
- 規模…桁行20尺(約6m)という規模は、二条城、大徳寺につぐ日本第3位の規模で、一般的な規模の約1.6倍
- 建築年代…虹梁の彫刻には1600年以降に登場した若葉紋様が施されている。

1.2 城下町ウォーク

①三原城跡天主台の石垣→②小早川隆景公像→③松林小路下水路の石垣跡

→④宗光寺山門・本堂・七重塔・福島正之墓・浅野忠長の墓→⑤船木氏庭園(H23県内初の国の登録記念物指定)



〔三原城跡天主台石垣〕



〔小早川隆景公像〕



〔宗光寺山門〕



〔船木氏庭園〕

2. 三原市歴史民俗資料館第3回「蔵出しお宝展」を支援

第11回三原浮城まつり協賛のこの展示会は、平成26年10月23日～27日に開催され、市民学芸員体験グループの有志が、準備作業等で支援しました。

【ご意見受付】

この「みはら玉手箱」へのご意見等は
 三原市教育委員会文化課
 bunka@city.mihara.hiroshima.jp宛に
 お寄せください

みはら おもしろクイズ



(解答は欄外にあります)

三原にある 興安丸の解体錨



〔興安丸の錨〕



〔やっさ踊りの像
(後方に錨が見える)〕



〔昭和45年 三原市木原町沖で解体中の
興安丸(全長124.1m 全幅17.4m)〕

三原市歴史民俗資料館蔵

1. 錨の設置場所

国道2号線沿い、三原港の東側に男女三人が色鮮やかな浴衣姿でやっさ踊りを演じている像があります。その東方5m程の位置にある錨は、地味な色で目立たないので、その存在に気付かない人も多いようです。設置当初は、三原内港東岸壁にありましたが、人目につきやすいようにとこの位置に移設されたいのですが… 今回はこの錨について、解説します。

2. 錨設置の解説文

興安丸は、錨台座の銘板に以下の記載がありますように、第二次世界大戦以前から、戦後の高度成長期にかけて関釜連絡船、引き揚げ船、ベトナム引き揚げ船などに使用された昭和を代表する船でした。舞鶴港の「岸壁の母」の秘話は有名です。縁あって三原で解体され、船長さんのご要望もあって、三原で錨を保存することになったようです。

興安丸

昭和十一年三月十四日 三菱重工業株長崎造船所で起工
昭和十一年十月二日 同造船所で進水
鉄道省所有 七、一〇三総トン 最高速力三十三ノット
旅客定員、七四六名 全船冷暖房装置
昭和十二年一月三十一日 関釜連絡船として就航
下関―釜山間百二十海里を七時間三十分で運航する
昭和二十年四月一日 山口県蓋井付近で触雷し航行不能になる
昭和二十年六月二十日 関釜連絡船閉鎖になる
昭和二十年八月十五日 太平洋戦争敗戦終結
昭和二十年八月三十一日 占領軍より引き揚げ船第一船に指定され博多・仙崎―釜山間 往航は在日韓国人の帰国輸送に復航は日本人の引き揚げにあたる
昭和二十五年三月十八日 朝鮮郵船(後の東京郵船)に拂い下がり同年八月から朝鮮動乱(朝鮮戦争)により国連軍に備船され兵士や傷病兵の輸送にあたる
昭和二十八年三月 外地から舞鶴へ引き揚げ輸送にあたる 初めは華北の秦皇島から同年十一月にはソ連ナホトカから 同年八月一日にはカラフトから この日をもって戦後の引き揚げは完全に終止符がうたれる

昭和三十三年八月 東洋郵船に譲渡され東京湾周遊を行い 東京の新名所となる

昭和三十五年 ベトナム引き揚げに従事する

昭和四十五年十月 横須賀から三原まで曳航され 昭和史の最も激動の時期を生きた「興安丸」は三原市木原町沖において解体され、波乱の生涯を終える 同船とともに引き揚げに従事した船長玉有勇氏の願いと同船帰還した多くの戦友同胞の感謝と懐旧の念として錨と船銘板を解体の地に保存して永くその歴史を留めることとした

昭和五十四年九月

3. 興安丸のその他の部品

上記航跡のほか、イスラム教巡礼船やインドネシア国内航路でも活躍した実績から、きわめて強い保存運動もあったようですが、実現しませんでした。解体後、もう一つの錨とコンパスが下関市の火の山公園に、鐘が東京の交通博物館に保存されているそうです。

おもしろクイズ

本年10月28日、サン・シープラザで「興安丸を讀める会」が開催され、広島・福山・呉からも参加者がありました。11月19日、福山の会員から、船内の遺品等が三原市に寄贈されました。

興安丸の錨が保存されているのは、三原市だけでしょうか？

(ア) 他の場所にもある

(イ) 三原市だけである

クイズの解答

(イ)

石碑が語る三原の歴史

地球の温暖化のためか、各地で未曾有の大雨を記録し、広島市では死者74名の大水害が発生しました。沼田川の流域が大きい面積を占める三原市も過去多くの水害を経験しています。特に沼田川の支流の天井川の決壊の記録が目立ちます。今回は天井川が東西に走る小泉町の石碑を探ってみます。

道標



〔甲原交差点の道標〕



〔甲原交差点 矢印が道標〕

小泉町の西部に甲原（きねはら）の交差点があります。天井川に沿って東西に走る県道75号線（三原竹原線）と南北に走る県道59号線（東広島本郷忠海線）が直角に交差する交差点です。

この交差点に18cm角、高さ50cmの道標があり、明治45（1912）年に甲原青年会が建てたものです。

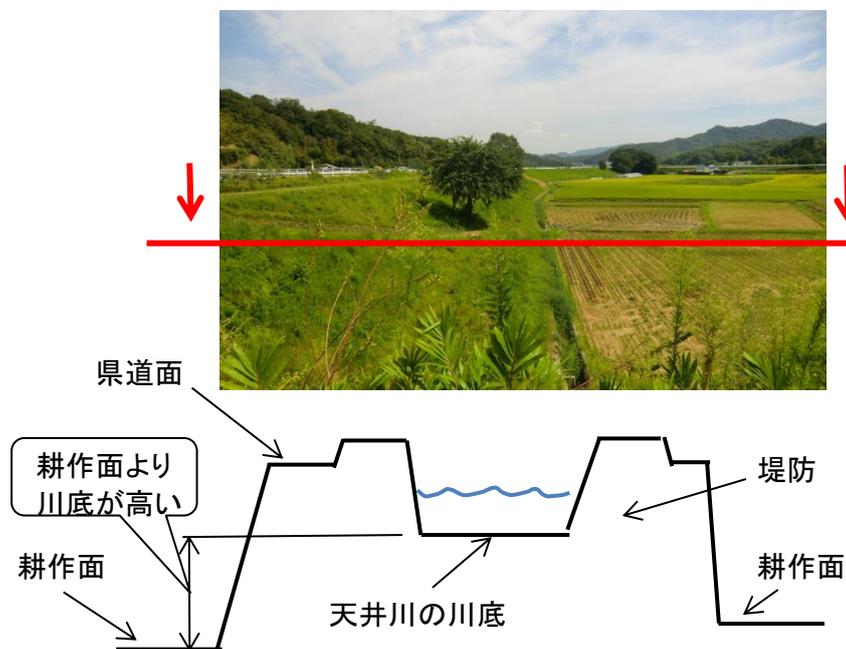
正面には「東三原町約三里、南忠海町約一里」と縦2列に彫られ、左面には「西竹原町約二里、北本郷村約一里半」と縦2列に彫られています。右面には「甲原青年会 建之」、裏面には「明治四十五年二月上旬」と彫られ、頂部には「東西南北」の方位が彫られています。

天井川の決壊等で何度かの改修を経て、現在の状態になりましたが、南北に走る県道59号線はかつては三次藩が飛び地忠海港へ産物を運んだり、参勤交代に利用した重要な街道で「三次街道」と呼ばれていました。近年、甲原竹原間も改修され、三原から竹原への最短ルートとして重宝されています。

記念碑



[天井川改修記念碑]



[天井川遠景と矢印部の断面図]

小泉町の中心を東西に天井川が流れています。この付近の山は竹原の塩田用や家庭の燃料用に木が伐採され、木が少なくなって土砂の流出を招いてきました。また、この河川は上流、下流の落差が少ないため、砂が十分流れず川底に堆積し、少しの雨でも水害が起こりやすくなります。そのため、次第に堤防を高くして、川は耕地よりはるか高い所を流れ、名の如く天井川となっています。三原市の水害の記録を見ると、この天井川の決壊の記録が多くみられます。

小泉小学校の運動場の北側に、大蔵大臣池田勇人の書で「天井川改修記念碑」と彫られた高さ243cm、幅124cm、厚さ36cmの石碑が高さ60cmの大きい台座の上に建っています。

右面には被害の概要、裏面には元沼田西小泉組合村長原田久雄が識した昭和27（1952）年の大水害の状況と、その復旧対策について彫られています。石碑は昭和31（1956）年12月に小泉町が大工事の完成を記念し、人畜に被害の皆無を神仏に感謝して建てたもので、尾道市の石匠吉本勇司の作です。

大災害の概要は、昭和27年7月2日に50年来の大雨が小泉村を襲い、郵便局、農協事務所、商店2軒が流失、小泉小学校が半壊、堤防の決壊800m、県道776mと農道3300mが流失、田畑の埋没15町歩、冠水53町歩、橋の流失11の大災害が起きました。人畜に被害が無かったのは幸いでした。

地元出身の大蔵大臣池田勇人、県知事大原博夫が非常に同情し、1億5100万円の復旧工事費を全額国庫負担として認め、天井川の大改修工事が行われました。関屋川との合流点より上1100mは旧河川に沿い、下流2200mは旧河川の北20mに変更し、沼田東村境に至るこの延長の一里（約4km）の河床を掘り下げ、全舗装を行い、今後如何なる大洪水にも耐えるような大改修だったそうです。

句碑・詩碑



[土地改良記念句碑]

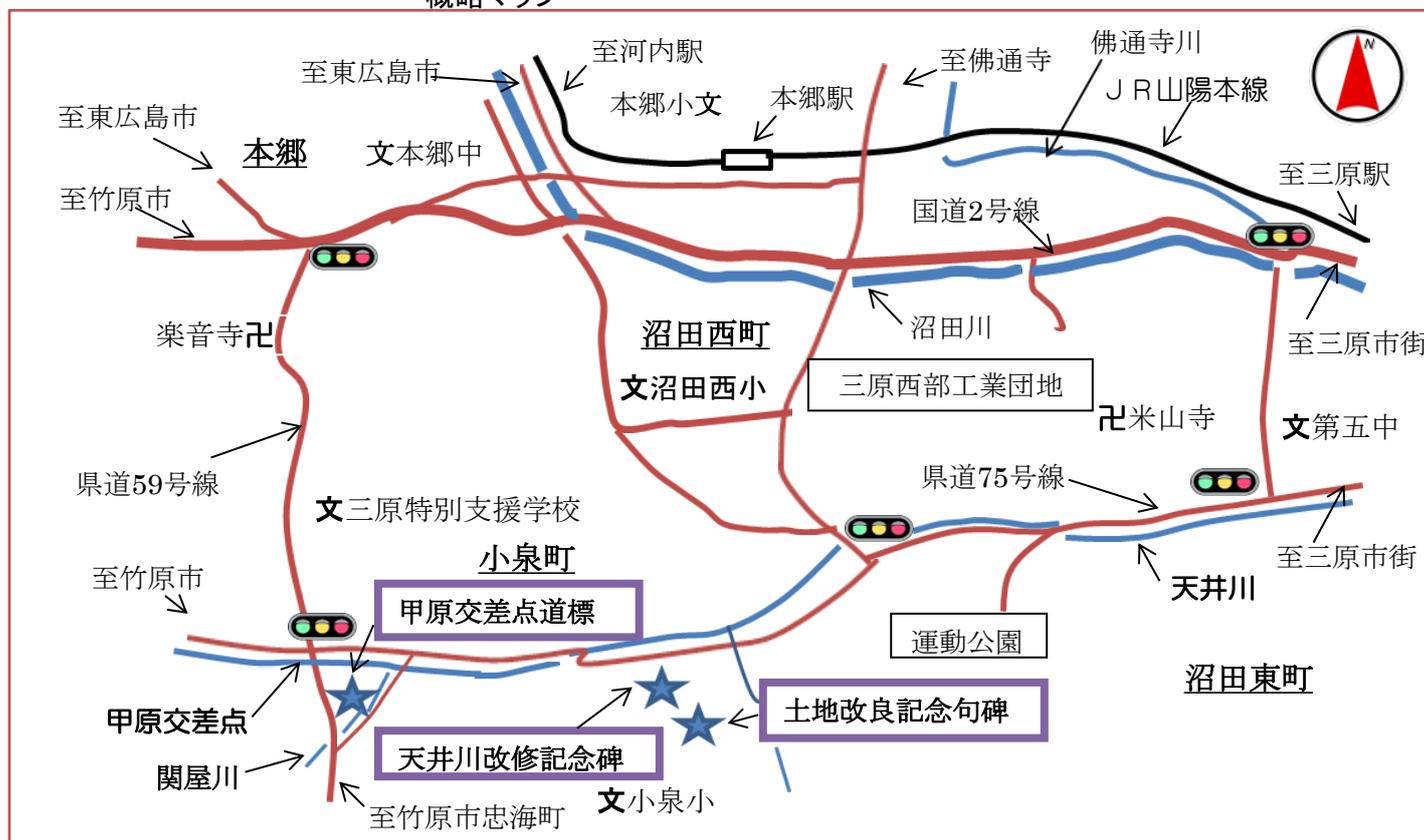
天井川の大改修後、大きい水害も発生しなくなり、177名が土地改良組合を結成し、5億2600万円の工事費で58.8ヘクタールの土地の本格的な改良を行ないました。昭和59（1984）年4月に着工し、平成4（1992）年3月に竣工したという大工事でした。

この大工事の完成を記念し、三原市長溝手顕正撰、内閣総理大臣宮沢喜一書の「輝く土の光 白瀧の里」の句碑を、三原土地改良区が天井川改修記念碑の隣に建てました。高さ220cm、幅85cm、厚さ36cmの立派なものです



[土地改良総合整備事業詳細の碑]

概略マップ





三原にある狛犬



今回は、久井町・小坂町の狛犬を紹介します。

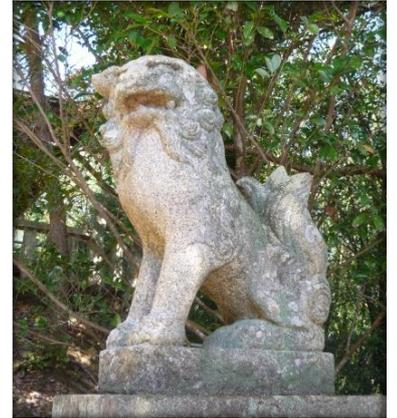
(広島県神社誌参照)

19・長谷神社 三原市小坂町3769

この地はひでりの多い所であって、往古祭礼の朝、村人が水を笹に付けて社壇に振り、また神輿に薦こまを被らせたという。これは潤雨の祈願の意であり、今日ではこの儀式はすたれたが、「小坂もおしの薦こまかつぎ」と称し伝えられています。

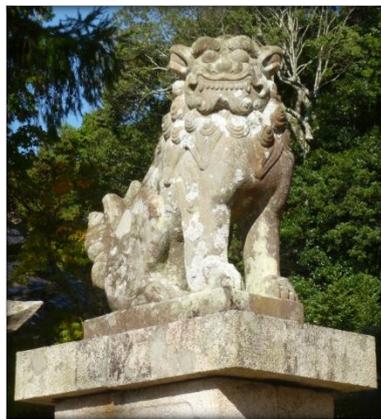


	単位: c m		
	高さ	幅	奥行
阿形	81	61	27
吽形	82	57	29
年代	安政3 (1856) 年 12月		
石工	喜作		
石材	花崗岩		
型	お座り型		



20・久井稻生神社 三原市久井町江木1-1

古来備後の有名大社として御神徳輝き、遠近よりの参拝者が多い。境内社八重垣神社は、久井の祇園さんとして有名で、その祭日には、氏子により祇園踊りが奉納され賑わっています。



	単位: c m		
	高さ	幅	奥行
阿形	85	83	42
吽形	87	80	37
年代	寛政8 (1796) 年 5月		
石工	不明		
石材	花崗岩		
型	お座り型		



21・貴船神社 三原市久井町和草追側甲241-3

明治40年、大字和草字宮之沖の八幡神社、同字十楽寺の水神社、同字前谷上の八坂神社、同字下り松の愛宕神社の四社を合併と記されています。また、神社内には、高さ186cm横195cmの可愛らしい鳥居があります。



	単位: c m		
	高さ	幅	奥行
阿形	92	87	41
吽形	86	86	41
年代	明治40 (1907) 年 9月		
石工	不明		
石材	花崗岩		
型	玉乗り型		

